

“日本のバイオテクノロジー”シリーズ第4回  
「日本の強み」

## 執筆者紹介

松山 大耕 まつやま だいこう

臨済宗 妙心寺退蔵院 副住職

## 【経歴等】

1978年京都市生まれ。2003年東京大学大学院 農学生命科学研究科修了。埼玉県新座市・平林寺にて3年半の修行生活を送った後、2007年より退蔵院副住職。2016年『日経ビジネス』誌の「次代を創る100人」に選出され、2018年より米・スタンフォード大客員講師。2019年文化庁長官表彰(文化庁)、重光賞(ボストン日本協会)受賞。2022年より京都観光大使。2011年には前ローマ教皇に謁見、2014年にはグライ・ラマ14世と会談し、世界のさまざまな宗教家・リーダーと交流。世界各国で宗教の垣根を超えて活動中。



“日本のバイオテクノロジー”シリーズでは日本の伝統と文化に関する寄稿をシリーズでお届けしています。

第4回である今回は、妙心寺退蔵院の副住職であり、世界各国で宗教の垣根を越えて活躍されている松山大耕様に、日本人自身が気づいていないこともある、その独自性と強みについて執筆いただきました。

世界の中で日本のプレゼンスが低下している。そう叫ばれて久しいですが、私は日本人が持つ独自性がいまだに世界で強みとして発揮されることもあると感じています。

たとえば坐禅指導をしていると、日本人がとても我慢強く礼儀正しいことを改めて感じます。日本の子どもたちの多くは言われた通りにちゃんとやる。でも海外の子どもたちは、「何だこれは?」という感じでなかなか長い間じっとしてはいられない。もちろん、彼らはじっと座ることに慣れていないというのも大きな理由のひとつですが、現代は「他人と違うこと」が評

価されがちですけれども、他人のよいところを盗んでまねる、言われたことを素直にできるという点は私たちがもっと自信を持ってよいと思います。

また、海外の学生の特徴として、その先に何かがあるという目立てがあれば積極的に動きますが、理由がないと動かないという傾向もあります。たとえば禅の世界でもこうやったら悟りが得られるという確証や方法論がないのであれば、続けることができずにやめてしまう人も多い。厳しい修行を続けても必ず悟りを得られるという確証はない。そんな中でも、日本の禅僧は愚直に求道していきます。こういったスタンス



は日本的だと言えるのではないのでしょうか。サイエンスの分野でも、ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村先生の研究などは、極めて日本的なアプローチで、欧米的な研究では成しえなかった偉業だと思います。

世界に目を向けると日本で私たち自身に感じるものと異なった印象を持たれていることにも気づきます。例えば、創造性について、ある国際機関が行った調査によると「世界で一番クリエイティブな国はどこだと思いますか」という質問への回答は、日本とアメリカで尋ねた場合、「アメリカ」という回答が最多でした。しかし、日米以外の国々で同じ質問をしたときは、「日本」と答えた人が三割を超え、アメリカを凌いで最も多かったというのです。日本人は一般に、自分たちのことを、規律と団体行動には長けているけれども創造性は乏しいと考えています。それなのになぜ、日本人は創造性があると他国では考えられているのでしょうか。

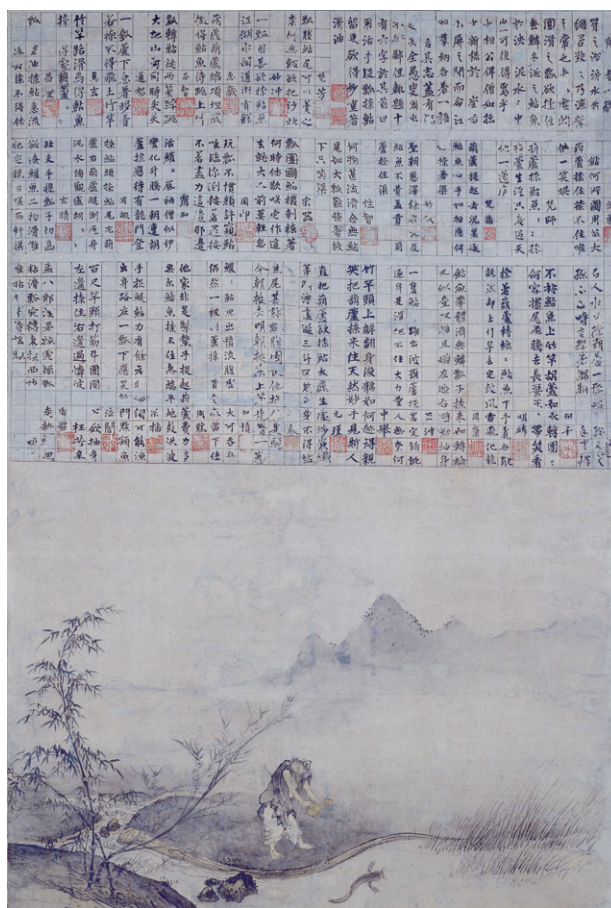
例えば、アメリカでは新しいものを生み出す方法論が非常に優れているし、失敗してもよいからアイデアをどんどん出して、創造性のあるものを生み出そうという意欲が抜きん出ています。しかし、インパクトとして浅く、長続きしないものも多く生み出されています。日本では、こういうアイデアは「おもしろいね」「クレイジーだね」という評価にはなるとは思いますが、本当に斬新で創造性があふれるとは評価されません。日本でいうクリエイティブというのは100年後、200年後も変わらず愛され、影響を与え続ける普遍的なものを指すのではないかと思うのです。

例えば、ソニーのウォークマンもそういった部類に入るでしょう。日本でクリエイティブと言われるためには時代を超えた普遍的な価値を持たねばなりません。その手法としては、古来から言われるように「守・破・離」という考え方が必要だと思います。「守」とは良い手本をまねること。型を学び、伝統を身につけること。その型がしっかりと身についた段階で、それを「破」っていく。そして、最終的には自分のオリジナリティとして「離」れていく。そういう手順を踏んでは

じめて「真にクリエイティブ」と呼ばれるものが生まれます。こういう深い洞察と伝統への敬意があるからこそ、その後何百年も愛され、影響力のあるものを日本人が創造してこられたのではないのでしょうか。

さまざまな分野で時間の概念が非常に短くなっています。もちろん、アメリカ式の創造性も必要だと思いますが、同時に日本的な創造性も非常に意味があると感じています。この二つの概念を融合できる人が、本当の意味でのクリエイティブな人なのではないのでしょうか。

確かに、諸外国から学ぶことはたくさんあり、外に目を向けることは大切です。しかしそればかりでは自分たちの本質を知ることにはできませんし、自分たちのことを知らなければ変えるべきところを変えることもできません。日本をやたら礼賛する近年の一部の風潮にはあまり賛成できませんが、自分自身のアイデンティティや独自性を理解し、それを保持していくことも大切だと感じています。



国宝「瓢鯨図」如拙筆 退蔵院所蔵